

Eco Green

室内・ベランダの
ガーデニング

◆◆◆◆◆
大林修一

ECO GREEN「エコグリーン」は室内の空気をきれいにして、
私たちの健康と地球の環境に役立つ植物です。

「エコグリーン」をもっと身近に、育ててみましょう。

清潔で手入れがかんたん、土を使わないハイドロカルチャーの楽しみ方も豊富に紹介。

講談社 定価：本体1700円（税別）

キッチン 清潔感が最優先

高温で焼成したレカトンを植え込み材にするハイドロカルチャーなら、雑菌の入りやすい土植えと違って清潔です。食べ物を扱う清潔最優先のキッチンにも植物を飾れます。

キッチンにあるグラスやボール、小鉢などの食器を使って、ハイドロカルチャーで植物を飾ります。清潔感のあるミニ観葉を寄せ植えしたり、個性的な器に小さく植えたりします。限られたスペースの中で機能性も大切ですから、窓辺やカウンターの片隅などが邪魔にならない植物の置き場所です。ほんのわずかにグリーンを加えただけでも、植物のもつやさしさや緑の自然な色合いがキッチンに潤いを演出します。

カウンターの片隅は植地を飾る指定席。長く下置するコルムネアは冬も15℃以上あれば開花する。早春はプリムラを添えて季節感を演出する。



カウンターに小さなガラス器のミニ観葉を並べて、パキラ、シェフレラ、アフェランドラなど。ダイニングからの視線を遮る効果も大。



出窓にステンドグラスのテラリウム、フィロデンドロン、ペペロミアなど、さわやかな紫色を組み合わせて。

食器の出し入れに邪魔にならないところに置く。ドラセナ、プリムラ、ポリシヤスなど。水位計で確認して水やりを。



エントランス お客さまを迎える

玄関は家の顔です。家族の帰りを待ち、あたたかく迎え入れる空間。そしてお客さまとの出会いの場。住む人の人柄を感じさせるような親しみのあるコーディネートが心がかかります。

玄関は人の出入りが激しい場所。動線の邪魔にならないように、スペースに応じてグリーンを配置します。また、玄関は日当たりが悪かったり、ドアの開け閉めのたびに冷たい空気が入って温度が低くなりがちです。耐陰性が強く、低温にも強い植物を選びます。そしてお客さまを迎える特別な日には、鉢花や切り花を工夫して飾ります。

広いスペースに合わせて大きな寄せ植えを二つ置く。植物はタビビトノキ、カンガルーアイビー、アスパラガス、オーガスタ、アグラオネマなど、耐陰性のあるものを選ぶ。



小さなスペースにはドラセナ・ソングオブインディアの鉢と、パキラやホヤの小鉢、多肉植物の寄せ植えなどで小さくまとめる。

↑エントランスの広いスペース。バックの化粧レンガの色に合わせて鉢を選び、フィカス・ベンジャミナとアグラオネマ、オーガスタとアグラオネマ、ドラセナ・スルクローなど、ダイナミックに。

観葉植物を使ったフラワーアレンジメントのアイデア

それにしても観葉植物の葉の色や形のバリエーションの豊富なこと。鉢植えだけでなく、切り花に添える切り葉としてもよく使われます。でもやわらかい鳥の羽を思わせるような繊細な葉形のアジアンタムは切り葉では出回りません。切り葉にするとうまく水揚げしないからです。

ハイドロカルチャー用の苗売場には、挿し木専用オアシスに植えられたアジアンタムの苗があります。要するに、フラワーアレンジメントに使う吸水性スポンジと同じようなもので苗が育てられていること。このオアシス苗のままフラワーアレンジメントに使えばよいのです。花瓶の底にレカトンを入れ、切り花を挿す吸水性スポンジとオアシス苗の観葉植物をセットしておきます。

玄関の飾り棚に置き、時に応じて切り花を入れ替えます。そしてお客さまを迎える日にはちょっと豪華に、大輪のアマリリスとアルストロメリアなど、お客さまの好みの花を選んでアレンジします（プロセスは64ページ参照）。



室内とベランダのガーデニング

室内とベランダでガーデニングを楽しみます。ベランダは室内に比べると明るく、さまざまな植物を育てることができます。季節の訪れを教えてくれる落葉樹や果樹、それに四季折々の鉢花を加えて楽しみましょう。ベランダの日当たりや風の強さなどを考慮して、バランスよく並べます。小さなスペースでも意外と数多くの植物とつきあえるもの。自然をより身近に感じることができます。また、室内で光が必要な植物を楽しむには、ベランダと室内の植物を定期的に出し入れするとよいでしょう。容易に楽しめる方法を提案します。



室内に置いてあったマーガレットとクリスマスローズを入れる。植物を内鉢に挿入、カセット式に出し入れできるので、植物ごとの交換が容易。室内の植物との出し入れもこれなら苦にならない。



ベランダにコンテナをいくつか並べてつくったコンポガーデン。レイアウトの変更が容易。土植物と hidroカルチャーをドッキングしたテラポニックスシステム(p.69参照)を使うと、鉢底に水をため、水位計によって水管理できるので毎日の水やりは不要となる。

インテリア家具と植物を組み合わせて

hidroカルチャーなら鉢底の穴は不要。水がこぼれる心配もなく清潔なので、容器はあらゆるものが使えます。いろいろ工夫して、家具と植物を組み合わせてみました。ライティングを上手に使えば、植物の生育のためにもプラス。室内も明るくやさしい雰囲気になります。

さまざまな葉色と葉形の観葉植物がインテリア効果を高める。



テーブルそのものが植物のための容器。中にセントポーリアの鉢を並べてライティング。上蓋の穴は内鉢のサイズなので、時に応じて植物を入れ替えてさまざまな雰囲気を楽しむことができる。



照明器具と植物をドッキング、ライティングされるとパキラやドラセナ、ソングオブインディア、アンズリウムなども輝きを帯びます。



ベランダの演出効果

ベランダを人にも植物にも居心地のよいスペースにするには、トレリスとウッドパネルがいちばん必要なもの。植物のためにはおしゃれなコンテナを、そして人のためにはのんびりくつろげるテーブルやイスがあったら素敵です。これらの要素をいかにレイアウトするかが大切です。コンテナは掛けたり、吊したり、置いたりして飾りますが、スタンドを組み合わせて空間を立体的に活用しましょう。植物の手入れがしやすいような配置も必要です。

白壁のベランダのコーナーに市販のスタンドタイプのトレリスを置く。ここは植物を飾る場所と決めると使い勝手が良い。丹精したトラディショナルなコンテナを掛け、クロセンドラ、パキスタキス・ルチアとインパチエンスなどのコンテナをバランスよく配置する。



↑座に続くデッキの手すりの上にコンテナを置く。安全を確かめてしっかり固定すること。葉色の美しいシンゴニウム、デュランタ、ポトスなど。



→エリカやカルーナの寄せ植えをした小さなコンテナはいくつかまとめて置くとうまい。ブリキとテラコッタ、似たような形のものを揃える。

リビングのドアを開けると観葉植物の大きなハンギングバスケットが目飛び込んでくる。ギマラ、オリヅルラン、ドラセナ・スルクrosaなど、何種類もの葉色や葉形が揃って見ごこち。ネフロレピスとグロリアのコンテナはスタンドを利用して立体的に。



↑トレリスの色を変えるとベランダの雰囲気が変わる。白は明るく開放的、グリーンは落ち着いた雰囲気になる。グズマニアとオリヅルランなどのウォールポットをトレリスに掛け、ワットフィルディアとインパチエンスの寄せ植えはベンチに、床にはフィカス・プミラのトピアリーを置く。

→高さ1.5mの白いトレリスを建て、外からの視線を遮りプライベートな空間を作る。トレリスにはアスパラガスなどのウォールポットを掛け、テーブルの足元にはクロトンやポトス、ヒメコリウスなどのコンテナを置く。さわやかな風が吹き、ここで過ごすのが楽しい。

